【参考資料】■不登校 - 変容過程の一つのモデル■　　岐阜県教育センター研究紀要第１９集より　　H9, 4, 1訂

	心身の不調を訴える時期	情緒的混乱が著しい時期	怠惰で無気力とも見える時期	生活のリズムを整える時期	不安定な登校等自立を始める時期
本人の状態	・朝、登校の準備に時間をかけ登校を渋る。 ・朝、頭痛・発熱・吐き気など身体症状を訴える。 ・午後には元気になり、夜になると準備をするが登校できない。 ・休日や土曜の午後は元気になる ・昼間は外出しない。外出しても人目を気にする。 ・家族といても沈み込んだり、不機嫌な様子を見せたりする。	・強く登校を促すと身体が硬直したり、トイレや部屋に閉じこもる。 ・両親のことを「おまえ、あいつ」という荒い言葉遣いをする。 ・壁や戸を蹴ったり、叩いたりしていらいらを物にぶつける。 ・両親や兄弟姉妹に暴力を振ったり高価な物を買えと無理難題を言う ・いくら興奮して暴れていても、他人が来ると何事もなかったように態度を一変させる。	・日中でもカーテンや雨戸を引き、自分の部屋に閉じこもる。 ・生活習慣は全く乱れ、気の向くままの生活をする。入浴や散髪を嫌がり、部屋の掃除もさせない。 ・昼夜逆転の生活で、昼頃に起きる。 ・テレビ、ＴＶゲーム、漫画に熱中し、対人関係を必要としないことに時間を費やす。 ・親と一緒に寝たいなどの退行現象が起こる。	・自分の部屋の模様替えをしたり自分の身だしなみに注意を払ったりするようになる。 ・学校や勉強に触れなければ、家族と自由に会話をするようになる。 ・電話に抵抗なく出るようになり訪問者の対応もすることが多くなる。 ・家で手伝いを始めたり、早朝や夜に散歩する。 ・旅行やコンサートに出かけたりアルバイトを始めたりする。	・友達の行き来が盛んになる。 ・登校予定日を自分なりに想定し登校に伴う問題に対する不安を一つ一つ解決する。 ・自分のペースで、保健室や相談室へ登校する。 ・登校は断続的である。 ・学校生活への参加は部分的にしかできない。 ・一人で登校しづらく、付き添いを必要とする場合もある。 ・一部の先生としか話ができない
本人の心情	◇登校に対する義務感と抵抗感の葛藤がある。 ◇登校できないのは病気のためという形で自分自身にも納得させようとする。 ◇欠席に対する罪悪感を強くもつ ◇近所の人や友達に自分がどのように思われているかを気にする	◇登校できない自分自身へのいらだちと、その気持ちを理解してもらえない寂しさに苦しむ。 ◇気持ちを逆なでするような周囲の叱責や非難に対して自分を制御しきれずに爆発する。 ◇興奮状態がおさまると、自分の行為の異常さに気付き、自責の念に苦しむ。 ◇家族以外の人にはあくまでも普通の子として見られたいという意識が強い。	◇強い挫折感と自分自身への無力感をもつ。 ◇全く一人になって、現在の自分と今までの自分の生活を振り返り、これからの生き方を模索しようとする。 ◇学校のことを考えれば考えるほどつらく苦しくなる。 ◇強い情緒不安を母親とのスキンシップを通して治そうとする。 ◇母親の支配から脱出したい気持ちになる。	◇無気力ともみえる生活から脱却したい気持ちが強まる。 ◇自分の意志で新しい生活を始めたくなる。 ◇親の考えや態度を確かめたくなり、親が自分の独自性、自主性を認めてくれないと不機嫌になるが、ある程度はコントロールできるようになる。 ◇気持ちに少し余裕が生まれ、親の立場や気持ちも考えようとする。 ◇次第に家庭から外の世界に向く	◇少しずつ家庭から外へ出ることにより社会的適応の面で自信をつけ、登校に対する自信を深めていく。 ◇登校に伴う問題を自分で解決しようと努力する。 ◇登校しても、学級不適応感や友人関係の不安など、非常に強い緊張感がある。 ◇表面的には明るくても、不安感が強く、周囲の人たちの反応を気にしている。
本人に対する援助	○情緒が非常に不安定な時は、登校を強制せず、登校できないことに対する心理的負担を軽くするように努める。 ○本人の興味・関心のある話題や遊びを通して、本人との親和関係を作り出すことに努める。 ○ありのままの気持ちを出すように配慮し、説諭は逆効果となりやすいから避ける。	○現象面の異常さのみに注目しないで、情緒的混乱の背景を理解することに努める。 ○行為を無視するとますますエスカレートする可能性があるので、本人の気持ちをくみながら本人の感情が鎮まるまで受容的に対応する ○家庭訪問が強い登校刺激になり、より情緒的混乱が増すときは、回数や方法を考慮する。	○登校についての不安が強い場合には、安心して身体（気持ち）を休めるようにすることを伝える。 ○たとえ身勝手な不満であっても、静かに聴いて受け入れていく。 ○家庭訪問の機会に本人の好きなことを一緒にし、親和関係を深める。 ○登校の催促をすることは控える。	○家庭訪問をしたり、電話をかけたりして、ラポートを作る。 ○学校の出来事や行事や連絡等のプリント類は、一つの情報として連絡し、反応を見てみる。 ○登校に対する本人の不安な気持ちを受け止めるように配慮する ○登校を促して、登校しやすい時間帯、落ち着いていられる学校での場所等を話し合う。	○登校については、無理のないステップで柔軟な対応ができるようにしておく。（本人の登校しやすい時間で） ○登校した時は本人の緊張感を和らげるような配慮をする。（励ましの言葉は本人の気を重くする。 ○学級の受け入れ体制を考慮する ○本人の弱さを非難しない。 ○学校生活の完全参加を急がない
親の心情と親への援助	◇病気に対して神経質になり、本人と病院巡りをする。 ◇世間体が気になる。 ◇本人の心がつかめず、不安で仕方ない。	◇学校に本人を登校させる責任を押しつけられ、不安と緊張が増す。 ◇養育者としての非を追求され、強い不安感と孤独感をもつ。 ◇本人に対する愛情と憎悪との葛藤がある。	◇このままでは怠けぐせがついたり、本当に病気になったりしてしまわないかと心配し、不安になる。 ◇学校との連絡が疎遠になり、学校から見離されたような不安が増す。	◇本人との会話が成立する等、変化を感じ安心する。 ◇もう少し何とかならないかと焦るが、何もしてやれず物足りなさと不安を感じる。 ◇友達とのかかわりがうれしい。	◇また行かないのではないかと毎朝不安で、登校するとほっとする。 ◇本人が落ち込んでも、自分で立ち上がるのを待つことができる
	○親の不安に追い打ちをかけるような言動を避け、親の見解や子供に関する情報を十分に聴く。 ○不登校に関する情報を提供する。（親の不安感を少しでも軽くするような配慮をする）	○親に本人への理解を深め、接し方を工夫してもらう。 ○登校刺激を取り除くことの理解。 ○家庭内で本人が心身とも安定できるようにする。 ○本人を巡る家庭内の人間関係改善	○生活習慣の乱れは本人が立ち直るための一時的な現象だという理解を深め、焦らず見守るよう励ます。 ○自立心を育てる必要性を理解する。 ○親や本人の不安が強い場合は、相談機関や医療機関で相談することを勧める	○親子関係の在り方や養育態度についての理解を一層深めるように働きかける。 ○本人の意志を尊重し、活動範囲を広げるように働きかける。 ○生活のリズムを整えさせる。	○本人の自主的な判断を大事にする。 ○本人の真剣な言葉に耳を傾け、本人が要求したことにはできるだけの支援をするように助言する。